

令和7年度「健康都市に関する懇談会」 会議要旨

1 開催日時

令和8年1月29日（木）

開会 午前9時

閉会 午後10時45分

2 開催場所

尾張旭市役所3階 講堂2

3 出席した構成員（12名）

柳澤理子、佐藤庸子、大津豊一、鈴木一平、青木高直、水野真由子、岡田敏彦、伊藤紀子、齋場賢宜、若杉浩二、林幹夫、徳増とし子

4 傍聴者数

0名

5 出席した事務局職員

健康都市・スポーツ課長 加藤貴之、健康都市推進係長 柳田麻維、主事 水野愛弓

6 議題等

- (1) 健康都市の推進状況・令和7年度の取組（報告）
- (2) 第3次尾張旭市健康都市プログラムの策定について（報告）
- (3) 意見交換（これまで・これからの健康都市の取組について）

7 会議の要旨

1 開会
・健康都市・スポーツ課職員の紹介 ・資料の確認 ・会議進行方法の説明 ・新構成員の紹介
2 議事
(1) 健康都市の推進状況・令和7年度の取組（報告）
・事務局から、資料に基づいて説明。 ・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●スポーツビジョン測定体験は、具体的にどのようなことを行ったのか。免許更新時の視覚の検査と同様のものか。

(事務局)

スポーツビジョンとは、様々な視覚機能を指しており、測定体験では、視力検査、動体視力や瞬間視等の様々な視え方の測定を行った。

このイベントは、プロ野球選手等が実際に行っているものを実施し、現在スポーツ活動を行っている子ども達に自身の能力の現状を知ってもらい、アドバイスを受けることで今後の子ども達のスポーツ活動に役立ててもらおうよう実施した。アドバイスの1つで私達にも応用できるものとして、近くを注視した際は20秒程度6m先を見ると目のピント調節の機能が鍛えられるとのこと。是非皆様も実施していただきたい。

●健康都市日本支部大会に健康づくり推進員として出席した。交流会時に他市では、市民団体は市の計画したイベント等の補助がメインになるが、本市の市民団体の活動は自主性をもち活動することができることを知った。

●マイスター手帳の提出者について昨年度、若年層の参加があったと記憶しているが、今年度はいかがか。

(事務局)

マイスター手帳の提出者の割合は大人が多い。しかし、近年ではシルバーマイスターの中に小学生や中学生もいる。また、今年度5歳の最年少のシルバーマイスターが誕生した。小さい頃から家族で参加いただいたことでこうした結果につながった。

●まちづくりアンケートについて、アンケートの回答率はどの程度か。回収率によっては、認知度の差が出てくるのではないか。

(事務局)

令和5年度は、54.2%の回答率であった。市内の18歳以上を対象に3000人に配布し、1627人の回答あり。

●あさひ健康マイスターについて将来的にアプリ化を検討してほしい。経費も今より低くなるのではないか。スマホは基本的に持っているためより手軽になりそう。

(2) 第3次尾張旭市健康都市プログラムについて (報告)

・事務局から、資料に基づいて説明。

・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●健康都市プログラムにある住み続けたいまちづくりにある、健康都市の取組などの市の魅力を発信することで認知度を高めるとあるが、市のPRを今後どのように行っていくか知りたい。職場が三河のほうで、尾張旭市の市名も聞いたことがないと言われる。

(事務局)

「尾張旭市」の認知度向上については、広報戦略課が担当になるが、市の周知については、シティプロモーションとしてモリコロパークや栄地下等の市外でのイベントに参加するなど積極的に活動している。今後も、広報戦略課等と

も協力して市の PR を行っていきたい。

●市の記事を新聞等に掲載があったりするので、PR していることは知っている。提案になるが市の PR 方法の一つとして、スポーツを通しての PR を行うのはいかがか。中日ホームニュースにスケートショートトラックの吉永選手について書かれていた。全日本で優勝している小学生もいる。スポーツ項目であれば関心をもたれやすいと考えている。なので、期間を定めて尾張旭市出身の選手をまとめて公表することで、インパクトのある市の周知をすることができるのではないかと。

(事務局)

今年度から健康都市・スポーツ課になったことで、健康とスポーツを融合して PR 等を行っていく。スポーツは「楽しさ」があり、そのポテンシャルは図り知れないと皆様も感じていると思うが、そういった力を生かして尾張旭をより良くしていきたいと考えている。なお、吉永選手については市内に横断幕等の掲出を行っており、野球の高橋選手も WBC の選手に選出され、今後応援もしていくため、皆様も是非応援をよろしくお願ひしたい。全国大会等に出場した方に対しては表敬訪問を行っており、中日新聞の地方版等にも掲載されており、今後もスポーツの方面からの PR も行っていきたい。

●ふるさと納税等で市への納税が減っているため、知名度をあげていかなければならない。市の PR 時に、「歯医者が多い」や「区画整理を進めている」等の具体的なものを掲示してあると印象に残りやすいのではないかと考える。また、プログラムのこどもすくすくのびのびのところで、子どもの頃の健康について健康健診等様々あるためそういったものの PR も行ってほしい。

●こどもすくすくのびのびの推進のところで元気まる測定や体力チェックとあるがどんなものか。子どもでも参加することが可能か。

最近の子どもはけがをしやすく、運動能力の低下が気になっている。学校と連携してこどもの体力チェック等についてなにかできるか模索していきたい。

(事務局)

元気まる測定は、事前アンケートや体組成測定、体力テストを実施後、プログラムシートの結果から、自分の現状と改善をしてもらうもの。夏休み期間などで小学生向けに、親子で元気まるを実施している。

(座長)

学校と何か連携としてイベントを週末等に開催することは可能か。

(事務局)

学校行事等で合わせていくことは難しいと考えている。

●学校の方で時間を設けた場合は、来訪して子どもに話をしたり、体験機会を設けたりは可能か。

(事務局)

小学生の健康についてはこども家庭課が担当となっているため、担当課に伝える。

●小学校の授業の中に学校保健委員会の時間があるため、市と連携可能。有効

だと思うので検討してみたい。

●行った取組の成果が分かるようなものがあると良い。目に見える形で成果が分ると伝わり安い。

また、健康を損ねた人についてのフォローについての記載があると良いと思う。健康を損ねた人も自分のことだと思えるような表現があるとより良い。例えば、市内または近隣に医療機関が多く医療環境が良いとか自然災害が少ないとか生活環境でのメリットがあることなどを表現しても良いと思う。

●ボランティアで食育ラボに参加している。最近は幼児等小さい頃から噛む力が非常に少ない。また、野菜も摂れていない。小さい頃から食育、食生活について何らかの形で提案すべきだと考えている。先日研修でバナナ1本でも噛む力は大事だと学んだ。骨折等も女性だけでなく少年も増えているので、どう対処すべきか考えながら食事や食生活を行っていただきたい。

●市の農産物を学校給食にて使用し、児童等に知ってもらう機会にもなっている。外国産の野菜は、ポストハーベストなど運送時に農薬を使用して腐らないようにしている。食育だけでなく安全性のところも知ってもらい、子どもの頃からの食生活を意識してほしい。

●中学生を巻き込んだ取組を行いたい。若い人もいることで地域活動の活性化に繋がると考えている。例えば、中学校に健康推進クラブをつくるなど。大人になり自分の時間が持てた時にボランティアを開始したが、最初は、どうすればいいのかわからなかった。そのため、若いうちに経験することにより、大人になった時に戻ってきてくれるかも知れないと考えている。

また、認知症の初期症状の方に対して地域で声かけ等を行い、仲間意識をつけて行けることをしたい。そうすることで、独居の人の認知症の進行を遅らせることが出来るし、家族の負担も減ると思う。

●地域活動は若い人の参加が減っている。マイスター手帳をみて様々な人が参加できるイベントを今後も続けてほしい。

また、市営バスあさび一号の増便をしてほしい。車移動ができなくなると利用したいが、便が少ないと不便を感じる。

(3) 意見交換（これからの健康都市の取組について）（報告）

・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●商工会としても市を活性化に繋がるよう今日の話も含めて色々と検討していく。

（事務局）

あさひ健康マイスター手帳のPRを行っているが、認知度が低いと感じている。要望があれば、必要分の手帳を届けることや説明に伺うことも可能のため、周知にご協力していただきたい。

●健康づくり推進員会では、高齢者の人を対象に市内の公共施設等を借りてらくらく筋トレ教室を行っている。悩みとして、健康づくり推進員や参加者の高齢化がある。市内では67グループあるため、近所のグループに参加してもらうことが可能。しかし、病気や教室の時間とあさび一号の時間やバス停が合わ

ない等の問題がある。それにより今まで参加していた人が参加出来なくなることがフレイルに陥りやすくなる理由の一つではないかと考えている。1人で行うより、友達等と行うほうが継続しやすく、体操だけでなくおしゃべりも参加する要素となっている。そのため、家からオンラインで参加できるようにしてほしい。映像から安否確認等にも繋がるのではないかと考えている。実証実験をどこかのグループで行ってほしい。

●シニアクラブの紹介を簡単にまとめたものを配布した。シニアクラブも参加者が減っている。家にいるのではなく、自分にあった活動を行うことで健康づくりを行うことを目的としている。興味がある人は、シニアクラブにぜひ入会を。

3 その他

(事務局) 本日はいろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。

会議の中で伺った意見は、事務局で整理し、今後の健康都市づくりに反映していきます。

また、本日の会議録につきましては、調製の上、後日送付し、皆様の了解を得たのち、市ホームページで公開します。

最後になりますが、ご多忙にも関わらず、ご協力をいただきましてありがとうございました。

今後とも「健康都市 尾張旭」の推進にご協力をよろしくお願いいたします。